

クロバエによる豚熱ウイルスの伝播リスク評価

小笠原 悠^{1)†} 堀中あさひ¹⁾ 米山州二²⁾ 市川 優³⁾

- 1) 栃木県県央家畜保健衛生所 (〒321-0905 宇都宮市平出工業団地 6-8)
- 2) 栃木県県北家畜保健衛生所 (〒329-2747 那須塩原市千本松 800-3)
- 3) 栃木県農政部畜産振興課 (〒320-8501 宇都宮市埴田 1-1-20)

(2024年4月3日受付・2024年8月28日受理・2024年12月25日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/12/77_e173_article-char/ja

要 約

養豚農場における豚熱ウイルス (CSFV) の侵入経路の候補としてクロバエに注目した。ハエによる CSFV の伝播リスクを評価するために野生のハエの CSFV 保有状況を調査した結果、捕獲したクロバエ類の 29.4% (5/17 匹) から CSFV 遺伝子が検出された。また、ハエ体内における CSFV の保有期間を調査するため、飼育下のケブカクロバエに GPE⁻株培養液 ($10^{4.7}$ TCID₅₀/50 μ l) を摂食させたところ、摂食 24 時間後時点でも $10^{3.3}$ TCID₅₀ の CSFV が検出された。さらに、養豚農場におけるハエの分布調査では、死亡豚保管庫及び豚舎付近を中心にクロバエが捕獲され、農場にクロバエが飛来していることが確認された。本研究によりクロバエは豚熱の感染経路になりうることを示され、豚熱対策として従来の衛生対策に加え、農場におけるハエ対策も重要であると考えられた。

——キーワード：クロバエ，豚熱，豚，感染経路，野生イノシシ。

----- 日獣会誌 77, e173～e181 (2024)